

教材・支援機器活用実践事例

【楽譜を見ながら、楽器演奏ができるようになるための指導】

	実施年度	平成29年度	
授業について	教科名等	音楽	
	単元・題材名	「季節の音楽を楽しもう」	
	授業における教師のねらい	○生徒にわかりやすい楽譜を提示することで、主体的に合奏することができるようにする。 ○自分のパートを理解して演奏し、合奏に参加できるようにする。	
	授業における子どもの目標	○友達や自分の出番を意識しながら合奏を楽しむことができる。 ○簡単な楽譜を見たり、合図に合わせてたりしながら合奏をすることができる。	
子どもについて	学校・学級・学年	特別支援学校 中学部 通常の学級・重複障がい学級 全学年	
	対象の障がい	知的障がい	
	授業形態	集団学習	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級と重複障がい学級の一斉授業のため、一斉の指示は通りにくいことがある。個別に言葉掛けをする必要がある。 ・見通しが持てる学習では、落ち着いて活動に取り組み、授業時間の始めから席について活動に参加することができる。見通しが持てない学習では、パニックを起こし教室を飛び出したり、教室に入れず参加できなかつたりすることがある。 	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<p>「ジングルベル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵楽譜と色楽譜 ・色鍵盤（キーボード） 	 <p>絵楽譜</p> <p>色楽譜</p> <p>色鍵盤</p>
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽活動に意欲的に取り組む生徒は多いが、通常の学級の生徒と重複障がい学級の生徒と一緒に活動をするため、実態の差は大きい。そのため、分かりやすく、見やすい教材を作成・活用することで、通常の学級の生徒が一人で練習ができ、重複障がい学級の生徒が自信をもって活動できるようにする。 	
授業における支援 ・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・絵楽譜→使用する楽器のイラストを提示することで、自分の鳴らす場所を視覚的に確認したり、自ら鳴らしたりすることができるようにする。 ・色楽譜と色鍵盤→楽譜の階名を色分けし、鍵盤楽器にも同じ色のシールを貼っておくことで、自ら色楽譜と色鍵盤の同じ色のシールを見ながら練習したり、音階がわからなくても色を見て音を探して音を鳴らしたりすることができるようにする。 	
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒が担当の楽譜を見て練習をすることができ、鳴らす場所と休む場所を理解して合奏することができた。 ・キーボードを担当する生徒は一人一人の楽譜があったため、自分のペースで練習をしたり、授業時間以外でも練習をしたりと、主体的な活動が出てきた。 ・通常の学級の生徒が重複障がい学級の生徒へ教えたり、重複障がい学級の生徒が教師と一緒にではなく、友達と一緒に活動することができるようになった。 	